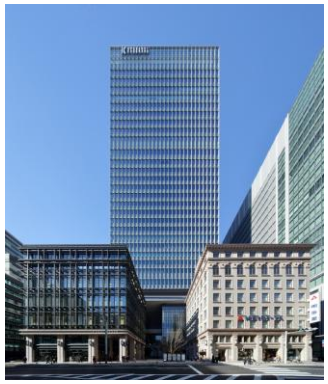
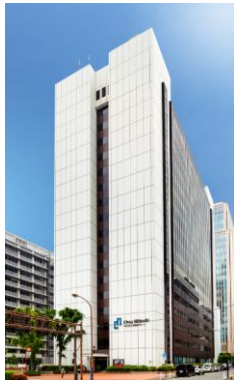
2 再生可能エネルギーの導入

当社グループは、脱炭素社会の実現に向けて、保有・運営する不動産の特性を踏まえながら、再生可能エネルギーの導入を段階的に進めています。
電力調達手法の多様化や新たな技術の活用を通じて、環境負荷の低減と事業価値の向上の両立を図っています。

●再生エネルギー導入済物件（一例）


京橋エドグラン

新丸の内センタービルディング
丸の内センタービルディング

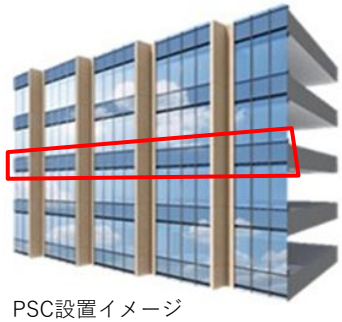

日土地ビル

仙台ファーストタワー

具体例❶：フィルム型ペロブスカイト太陽電池によるメガソーラー発電

「内幸町一丁目街区南地区第一種市街地再開発事業」で建設予定の建物（サウスタワー）では、CO_2排出量実質ゼロ、さらに“カーボンマイナス”を目指し、次世代太陽電池（PV）「フィルム型ペロブスカイト太陽電池（PSC）」を、外壁側内部に設置する予定です。これまで、高層ビルでのPV設置は、耐荷重や風圧への対応、コスト面で課題があり進んでいませんでしたが、「薄い・軽い・曲げられる」といった特徴を持つPSCによって実現し、次世代PVの発電容量は定格で1,000kW超を計画しています。実現すれば、都心部におけるエネルギー創出の最大化、“エネルギーの地産地消”の促進に向けたモデルケースとなる見込みです。

内幸町一丁目街区南地区
第一種市街地再開発事業
完成イメージ（サウスタワー）


PSC設置イメージ

2 再生可能エネルギーの導入

具体例❷：オフサイトフィジカルコーポレートPPAを通じた再生可能エネルギーの導入・供給

東京電力エナジーパートナー株式会社等とオフサイトフィジカルコーポレートPPAを締結し、再生可能エネルギー由来の電力と環境価値を組み合わせた電力供給を推進しています。追加性のある生グリーン電力の導入やトラッキング付非化石証書の活用により、使用電力が100%実質再生可能エネルギーとなっています。
2025年度には、山梨県北杜市明野町においてグループ会社のゴルフ場敷地を活用した「明野町小笠原太陽光発電所」（設備容量約1,789.2kW（DC）、年間発電量約244万kWh見込み）を開発しました。なお、地域の電気主任技術者による維持管理など、地域連携を重視した運営体制も構築しています。

明野町小笠原太陽光発電所

具体例❸：間伐材の木質チップ燃料としての活用

レイクウッドゴルフクラブ サンパーク明野コースでは、地元の燃料生産業者や「やまなし木質バイオマス協議会」と連携し、ゴルフ場周辺で発生する松くい虫被害木や間伐材を原料とした木質チップ燃料を活用しています。従来の灯油ボイラーをチップボイラーに置き換え、温浴施設や厨房などの熱源として利用することで、地域資源を生かした再生可能エネルギーの活用を推進しています。
本取り組みは、ゴルフ場として日本初のモデルケースであるとともに、国のCO_2削減事業のモデルにもなっており、年間1,400㎥（約4,000本）の木質チップを使用することで、適切な森林管理や林業・木材産業の再生に貢献するとともに、エネルギーの地産地消を推進しています。

チップボイラー

具体例❹カーボンニュートラル都市ガスの導入

飯野海運株式会社との共有物件である「汐留芝離宮ビルディング」において、カーボンニュートラル都市ガス（CN都市ガス）を導入しています。CN都市ガスは、天然ガスの供給元が保有するCO_2クレジットにより、LNGバリューチェーン（天然ガスの採掘から燃焼まで）で発生する温室効果ガスが相殺されています。

汐留芝離宮ビルディング